

旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



年頭にあたって

病院長 松野 丈夫

病院職員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。昨年は政権交代があり、今までとは全く異なった環境の中で吉

田晃敏学長の下、執行部一丸となって旭川医大病院の方向を見失わない様に努力を重ねた1年間でした。この間病院運営を支えていただいた多くの職員の皆様に、まずは御礼申し上げます。昨年1年間を振り返ると同時に今年への展望を述べてみたいと思います。

1. 道北ドクターヘリの運行開始と当院の救急体制

昨年10月の道北ドクターヘリ運行開始は道北の地域住民はもとより本学にとっても明るい画期的な出来事でした。現在は基地病院である旭川赤十字病院をサポートする立場ではありません。しかし今後道北地域の救急医療体制における大学病院の役割は加速度的に増え続けると思われることから、本学の建学精神である「道北・道東地区における高度先端医療の提供と医療過疎地の解消」を成し遂げるため、本院におけるしっかりとした救急体制の確立に向かって突き進んでいきたいと思ひます。その一環として昨年度は救急部の増床を行いました。また本年からはNICU、GCUの増床がなされますし、同時進行で院内における当直制度の検討も行われております。さらに本年は手術部およびICUの充実と可能であれば救命救急センターの確立が急務であると考へております。今の世の中、特に民主党政権の下での予算獲得の見通しは不透明であり、かなり困難を伴うとは思ひますが、職員一丸となって突き進みたいと思ひます。

2. 外来体制

従来から掲げている「1日で完結する外来」は残念ながらまだ成しえてはいません。しかしメディカルクラークの充実により、外来における医師・看護師の皆様の負担が減少し、本来の業務に集中出来る環境が整備されつつあると思ひます。但し現在の外来診療における最も大きな問題は外来患者数の増加による患者さんの待ち時間の延長であり、本年の課題の一つは外来診療体制の見直しであると考へております。

3. 二輪草センター

昨年の二輪草センターの活動は順調でした。特に12月24日からは看護師宿舎1階に病後児保育室が開かれました。今までにも増して、女性医師、女性看護師が働きやすい職場になってきたと思ひます。今後更なる充実が必要と考へます。

4. 入退院センター

病院長がセンター長となり、入退院センターの充実を図っています。現在は一部の病棟だけで行っているセンターの機能を病院全体に広げるとともにセンター職員の充実をはかりたいと思ひます。

5. 診療技術部の設置など

病院の最も重要な機能の一つが、臨床検査・輸血技術部門、放射線技術部門、病理技術部門、理学療法技術部門、臨床工学技術部門であるとの認識の下、これらの各技術部門をまとめて診療技術部を作りました。本年は診療技術部が中心となってコ・メディカル職員相互の連携を強くし、各技術部門から多くの意見が執行部に上がって来ることを期待しています。また昨年は緩和ケア診療部、栄養管理部が設置されました。本年度はこの2つの部の充実も図っていききたいと思ひます。

6. 福利厚生施設

雪解けを待って昨年来の懸案であった新しいレストランの建築が病院正面玄関の横に外出しで始まる予定です。秋には完成すると思ひます。その後に病院1階の食堂跡地へのコンビニの導入が決まっており、同時に病院1階の再編成・再改築を計画しています。また年末には病院玄関前にクリスマスイルミネーションがかざられました。患者さんはもとより職員の皆様のひとときの心の安らぎになればと思ひます。

7. 接遇

昨年の病院ニュースで、一年の目標として「正しい、適切な接遇」をとりあげました。しかし未だ接遇に対する考へ方の不十分で未熟な部署が見受けられます。

本年も目標として「正しい、適切な接遇」を掲げさせていただくと同時に、接遇に対する意識の足りない部署に対して今年には病院長として厳しい態度で臨む覚悟です。

8. その他

昨年本院は「地域がん診療連携拠点病院」「肝疾患診療連携拠点病院」に指定されました。またPET/CTも導入され、順調に稼動しています。これらの分野で地域に密着したより高度な医療を開始して行きたいと考へます。

昨年12月に行われた病院機能評価の指摘事項の多くは我々が以前から認識していたにもかかわらず十分には行っていないことでした。昨年は丑年でしたが、多少の牛歩も許されたかもしれませんが、今年には寅年です。勢いある虎の様にすべてをスピードアップしていきたく考へますので、病院職員の皆様のご協力をお願いいたします。平成22年の年頭にあたり、新しい年が皆様方にとって希望に満ちた年になることを祈念いたしてあります。

栄養管理部長に就任して

内科学講座 病態代謝内科学分野 羽田 勝計



平成21年8月1日に、中央診療施設の一部門として「栄養管理部」が発足しました。これは全国的な病院機能改革の一環であり、多くの大学病院で、これまでは事務部門の一つであった栄養管理室が、

「栄養管理部」あるいは「栄養治療部」に改組されています。この背景としては、栄養管理が全ての疾患の治療の基本であると認知されてきたことが挙げられます。

栄養管理部は、栄養管理部門（クリニカルサービス部門）と給食管理部門（フードサービス部門）から成り立っています。栄養管理部門では、星副部長（消化器外科）をチーフとしてNST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）を立ち上げ、身体計測や栄養状態の評価・必要栄養量の設定の他、栄養補給方法の提言など、活発に活動しています。その結果、日本静脈経腸栄養学会認定「NST専門療法士」実地修練認定教育施設・NST稼働施設、日本

栄養療法推進協議会認定のNST稼働施設として認定されています。

一方、給食管理部門は、斉藤副部長（栄養士長）をチーフとして管理栄養士5名・調理師15名から構成され、1食平均430食の食事を提供しています。栄養食事指導やNST症例の嗜好や身体状況に合わせた食事の提供を心がけており、人の身体に入る栄養管理を受け持つ中で、各症例に安全で美味しく喜ばれる食を届け「楽しい食事」の役割を果たしたいと願っております。さらに、入院時に各症例の栄養状態をスクリーニングし、多職種協働で栄養管理計画書を作成し、栄養管理の充実を図っています。残念ながら管理栄養士のマンパワー不足のため、現時点では病棟限定（6東・6西・9東・9西・10東の5病棟）の活動となっておりますが、平成18年度に新設された『栄養管理実施加算』の算定率増加をめざして、その活動を広げて行く所存です。

今後も、「クリニカルサービス」と「フードサービス」を車の両輪とし、院内のみならず地域の医療への貢献をめざして、活動を続けて行きたいと考えております。この新たに発足した「栄養管理部」に、種々のご指導・ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

緩和ケア診療部長に就任して

麻酔蘇生学講座 岩崎 寛



旭川医科大学病院における緩和ケアは大学病院などの地域拠点病院を中心に、がん治療における医療の質向上の一環として、これまで緩和ケア室として医師、認定看護師、薬剤師、およびソーシャルワーカーなどのいろいろな職種に協力して頂き活動してきました。しかし、この活動を永続的に、かつ、発展性を目指して行くためには、病院における組織内

での立場を、緩和ケア室から診療部として明確に位置することが必要と考えました。今回、病院長をはじめ多くの方々の理解を得まして、緩和ケア診療部として病院内に明記されましたことにより、緩和ケア診療部として医員の募集や臨床講義および臨床研修プログラムへの参加などの道筋ができたこととなります。現在、緩和ケア診療部として5階東病棟に専用ベッド2床を運用させて頂いておりますが、今後は外来および病院外活動を活発にして旭川地域における緩和医療の中心的な役割を担っていきたくと考えております。緩和ケアは他科や他職種との連携や理解無くしてその活動が推し進められるものではありませんので、更なるご理解とご支援を頂きたく存じております。

での立場を、緩和ケア室から診療部として明確に位置することが必要と考えました。今回、病院長をはじめ多くの方々の理解を得まして、緩和ケア診療部として病院内に明記されましたことにより、緩和ケア診療部として医員の募集や臨床講義および臨床研修プログラムへの参加などの道筋ができたこととなります。現在、緩和ケア診療部として5階東病棟に専用ベッド2床を運用させて頂いておりますが、今後は外来および病院外活動を活発にして旭川地域における緩和医療の中心的な役割を担っていきたくと考えております。緩和ケアは他科や他職種との連携や理解無くしてその活動が推し進められるものではありませんので、更なるご理解とご支援を頂きたく存じております。

内視鏡補助下甲状腺手術について

旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

片山 昭 公

甲状腺疾患の罹患頻度は女性に高く、また通常行われている外切開による甲状腺手術の皮膚切開創は常に露出されている前頸部に入ります。そのため術後に手術創を気にして、前頸部を大きく露出したファッションを楽しめなくなる女性患者様に少なからず遭遇いたします。内視鏡補助下甲状腺手術は病側の鎖骨下に皮膚割線に沿い 3～4 cm の皮膚切開創から甲状腺を摘出可能な術式であります。本術式は 1998 年に日本医科大学内分泌外科清水一雄教授により考案され、現在まで 10 年間に約 1500 件が日本国内で行わ

れてきました。この間、内分泌外科医を中心に本術式はさまざまな工夫を加えながら進化してきましたが、まだ標準手術として一般化するまでには至っておらず、北海道では唯一当科でしか行っておりません。当科では 2009 年 5 月に本術式の考案者である清水一雄教授御立ち会いのもと第一例が執り行われ、現在も順調に手術症例を重ねております。また、手術操作による侵襲も少ないことから入院期間も通常術後 3 日間程度と短く、患者様にも感謝いただいております。現在の当科における内視鏡補助下甲状腺手術の適応は、甲状腺良性結節で腫瘍径が 5 cm 以下の片葉限局、孤立性病変とさせていただきます。本術式に関してご質問、ご要望がございましたら気軽に旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学外来までご相談下さい。

当科にて
甲状腺内視鏡手術
を受けた患者様
(30代女性)

旭川医科大学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科



通常の開襟シャツを着ても手術によるキズは衣服に隠れたままです。



胸元を大きく開いてようやく鎖骨の下に小さなキズ(矢印間)が見ることが出来ます。

Fresh Voice

看護師として働き始めて

9階東ナースステーション

遠藤 優 奈



4月に循環器呼吸器外科病棟に配属となり、看護師として働き始めてから8ヶ月が経ちました。昨今の頃は、病棟での臨地実習を終え看護師国家試験に向け本格的に受験勉強を始めていた時期であり、たった1年で立場や環境が大きく変化し、現在自分が看護師として働いていることをと

ても不思議に感じています。

今勤務している病棟は、第一に希望していた病棟であったため、4月に配属先が決まったときは、不安や緊張ももちろんありましたが、それ以上に嬉しく希望に満ちたスタートを切ることができました。しかし、実際に勤務が始まると日々めまぐるしく変化していく患者様の状態についていくことができず、自分自身の知識・技術不足を痛感する毎日が続きま

した。本当に看護師としてやっていけるのだろうか？という不安を抱えるようになり、時に仕事に行きたくないと思うこともありました。

それでもここまで仕事を続けてこられたのは、身近な存在である病棟の先輩方や同期のお陰であると思っています。先輩方には知識や技術面のサポートのみならず、時間外であっても相談に応じていただき精神的にも支えられています。また、病棟研修などの機会も多く設けられており、臨床で役立つ技術や知識を事前に学ぶことができているため、少しでも安心して業務に臨むことができています。同期は同じ境遇の仲間であるため自分の気持ちを一番理解してくれる存在であり、同期と一緒に過ごす時間は最も安心できる場となっています。

そしてなにより、手術を終え元気になった患者様が退院していく姿を見ることがや、回復していく過程に寄り添い患者様と喜びを共有できることが日々仕事をしていく上での励みになっています。時には患者様から激励の言葉をいただくこともあり、患者様からも支えられているのだと改めて実感する場面でもあります。

8ヶ月経った今でもわからないこと、不安なことに遭遇する毎日の連続ですが、周囲の人達や環境に感謝しながら日々成長していけるよう努力していきたいと思ひます。



道北ドクターヘリの就航について

救急医学講座 教授 郷 一 知
 救急部長 准教授 藤 田 徳
 特任専門員 今 西 寛

平成17年4月、道央圏札幌の手稲溪仁会病院に、北海道で一機目のドクターヘリが導入されました。しかし、ドクターヘリの有効飛行範囲は限られており、医師不足により地域医療が崩壊寸前にある道北・道東をカバーしきれないのが現状で、北海道としては、国に二機目の導入を強く要望しておりました。

このような中、昨年の4月に旭川市医師会の会長が14万人余りの署名簿を知事に手渡し、正式に道北への誘致を表明し、同年8月28日（木）には、旭川市医師会を中心に、医療機関、各自治体、その他関係機関等による「道北ドクターヘリ運航調整研究会」が設立されました。

本院は、理念でもあります「次世代を担う医療人の育成」のため、又、崩壊しつつある地域医療の最後の砦として、特定機能病院の機能を存分に発揮すべく、本研究会の役員として、全面的な協力をする事としました。

その結果、厚生労働省及び北海道のご英断により、旭川を基点とした道北地区と、釧路を基点とした道東地区に、新たに二機のドクターヘリが今年度から配備されることとなりました。

道北ドクターヘリ運航調整研究会の役員会からは、本学に対し公式に関連施設用敷地提供等の申し入れがあり、本学は、地域住民や近隣施設に極力迷惑をかけないことを条件に職員第三駐車場を選定し、この申入れに応ずることとしました。



去る、10月1日には基地病院である旭川赤十字病院にドクターヘリが配備され、6日には利尻町から出動要請があり、当日の搭乗医師であった本院の小北集中治療部副部長が、道北ドクターヘリの活動医師第一号となりました。

また、同月11日には、高橋知事、国会議員、道議会議員を始め、消防や医療機関等関係者の方々を来賓として迎え、旭川赤十字病院の講堂において盛大な就航式が開催され、吉田学長が祝辞を述べるとともに、屋上のヘリポートではテープカットも挙行されました。



10月中は21件の出動要請に対して17回出動し、課題となっております離島についても、利尻町、焼尻町に出動しております。

本院からは10日間で6人の医師が出動しております。

11月末には、建設用地に55市町村からの寄付に基づく格納庫と給油施設、及び、本学のヘリポートも完成し、道北ドクターヘリ事業として、どのような状況にも対応可能な体制となりました。

最後に、この事業が、道北における地域医療発展の核となっていくことを願って止みません。

病院前バスロータリーの樹木を利用し、「イルミネーション」を設置しました。

この「イルミネーション」は、本院に通院・入院される患者さま、地域住民のみなさま、病院スタッフや本学職員・学生へ心休まる明かりによる癒しを提供しようと計画されました。



初日である12月1日（火）は、患者さまやご家族にお集まりいただき、病院スタッフ、大学職員も参加して点灯式を行いました。カウントダウンの後、一斉にイルミネーションが灯ると、歓声と拍手が湧きあがりました。

このイルミネーションは、環境にも配慮しLED電球7,000個を使用しています。



12月21日（月）の午前中、病棟の子どもたちに、サンタクロースに扮した病院長から、プレゼントが配られました。

最初は緊張していた子どもたちも、サンタやトナカイと会話をするうちに笑顔がほころび、病室は明るい雰囲気になりました。



病院長
サンタ

【薬剤部】

新薬紹介 (56)

アリスキレン (ラジレス®)

2009年、日本の「高血圧治療ガイドライン」が4年ぶりに改訂された。ガイドラインにおいて、レニン-アンジオテンシン (RA) 系を抑制するアンジオテンシン変換酵素 (ACE) 阻害薬や、アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) は、心血管イベントの抑制や臓器保護に有効であるとされ、中心的な役割を担っている。そのような中で2009年10月、10余年ぶりに新規作用機序の降圧剤であるアリスキレンが日本で発売された。

アリスキレンは、アミノ酸340個から成るレニンのAsp32とAsp216のアミノ酸残基に水素結合してレニンの酵素活性を阻害する。従って、RA系を最も上流で阻害する薬物である。その結果、AT I およびAT II の濃度を低下させ、持続的な降圧効果を発揮する。

一方でキニン系を介した作用は期待できない。よって、ACE阻害薬のように副作用としての空咳は考慮する必要はないと考えられている。また、他の降圧

薬を併用した場合でも、降圧効果が認められている。さらに、本剤の臓器保護効果・イベント抑制効果が進行中の大規模臨床試験で検証されている段階であり、その推移に注目が集まっている。

本剤の生物学的利用率は2.6%と高くはないが、1日1回投与で十分な降圧作用が示されている。しかし、高脂肪食摂取時には血中濃度-時間曲線下面積 (AUC) および最高血中濃度 (C_{max}) はそれぞれ71%、85%低下することが分かっている。また、半減期 ($t_{1/2}$) は40時間と長いため、通常1週間程度で定常状態に達する。

本剤はCYP3A4で代謝されるとされており、CYP3A4阻害薬と併用すると血中濃度が上昇する。さらに、本剤は薬物排泄のトランスポーターであるP糖蛋白 (Pgp) により腸管内に排出される。シクロスポリンはPgp阻害作用を有するため、本剤の排出を抑制し血中濃度を高めることが報告されている。よって、本剤とシクロスポリンは併用禁忌となっていることに注意されたい。

また、重大な副作用として血管浮腫、高カリウム血症が報告されている。本剤は新規機序薬であるため、未知の副作用にも十分留意しておく必要がある。

(薬剤部薬品情報室 山本 譲)

手術後に病棟で 使用予定のない血液は、 手術室退室時に返却しましょう!!

昨年12月3日に開催された「各部門の安全の取り組み」ポスターセッションで、輸血の病棟保管の危険性を当院で発生したインシデントとともに紹介し、病棟保管を防止する為の取り組みについて発表しました。そもそも、輸血の保管には、自記記録式温度計付の専用保冷庫の設置が義務づけられており、当院では輸血部、手術室、ICU、救急部、9階東に基準を満たす機器が配備されています。

輸血の病棟保管には、取り違え輸血の発生や、不適切な保管による製剤の品質低下のリスクがあります。当院には、手術当日に病棟で輸血を使う予定がない場合は、輸血を病棟に持ち帰らない決まりがありました。実際にはほとんど守られていませんで

した。そこで、輸血の病棟への持ち帰りや病棟保管を防ぐための取り組みとして、未使用製剤の手術室専用保冷庫への返却を促すお知らせを手術室への出庫製剤に添付しました。その結果、それまで返却率ゼロであったものが、10月は13.4%、11月は16.7%になりました。そして、ポスターセッション終了後、30.0%の返却率となりました。

輸血部門では手術後に患者とともに病棟に持ち帰られ、未使用のままになっている血液を毎朝回収しています。使用予定のない製剤が早期に返却されると他患者への転用が可能となり、限りある資源である血液製剤を有効に利用できます。出血性ショック患者の緊急搬送時や緊急手術時、また手術で予想以上の出血となった場合にも的確に院内在庫数を把握することができ、迅速な輸血準備が可能になります。手術後に病棟での使用予定がない血液は、手術室退室時に専用保冷庫へ返却して頂けるようお願いいたします。

(輸血部門 立花陽子、紀野修一)

永年勤続者表彰

勤労感謝の日にあわせ、平成21年度の本学永年勤続者表彰式が、11月24日(火)午前10時30分から事務局第二会議室で行われました。

表彰式は、部局長及び所属長の列席のもとに行われ、学長から被表彰者全員に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、学長から永年にわたり本学の発展、充実に尽力されたことに対する、感謝とねぎらいの挨拶があり、これに対して被表彰者を代表して心理学の高橋 雅治教授から、謝辞が述べられました。

なお、被表彰者は次の方々です。



- 石 上 香 (看護部)
- 運 上 法 子 (医療支援課)
- 小 原 貴 子 (看護部)
- 河 野 透 (外科学講座(消化器病態外科学分野))
- 佐 渡 正 敏 (病理部)
- 篠 崎 周 美 (会計課)
- 高 橋 英 俊 (皮膚科)
- 高 橋 雅 治 (心理学)
- 武 田 都 子 (看護部)
- 谷 本 祥 子 (図書館情報課)
- 長 尾 由 紀 (総務課)
- 林 秀 樹 (放射線部)
- 森 浩 美 (看護学講座)

(敬称略五十音順)

平成21年度 患者数等統計

(経営企画課)

区 分	外 来 患 者 数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病床)
	初 診	再 診	延患者数								
7 月	1,707	29,299	31,006	1,409.4	71.97	59.64	16,301	525.8	87.35	86.75	16.47
8 月	1,611	27,708	29,319	1,396.1	71.63	59.28	16,314	526.3	87.42	86.97	15.82
9 月	1,515	26,948	28,463	1,498.1	71.39	60.07	15,355	511.8	85.02	87.23	15.91
計	4,833	83,955	88,788	1,432.1	71.67	59.65	47,970	521.4	86.61	86.99	16.07
累計	9,377	166,080	175,457	1,426.5	71.33	59.70	95,788	523.4	86.95	85.80	16.49
同規模医科大学平均	9,405	122,151	131,556	1,071.7	85.99	57.02	94,289	515.2	85.10	85.29	17.27

編集後記

明けましておめでとうございます。

2010年になりました。アーサーCクラークが1982年に書いた「2010年宇宙の旅」でHAL9000の製作者であるチャンドラー博士が2001年に停止されたHALの復旧を行うために木星のディスカバリー号に到着したのが2010年です。残念ながら現実には1972年のアポロ17号以降、人類は月にさえ行っていません。2004年ジョージWブッシュは2020年までに宇宙飛行士を月面に到着させるという「コンステレーション計画」を発表しましたがその時点ではリーマンショックを予知することが不可能であり、おそらく計画は延期となることでしょう。

小さい頃に描いていた未来の世界は実際には現実の延長でしかなく、当然重力に反して宙に浮かぶことなど出来なかったのですが、コンピューターネットワークという情報の共有化は予想以上に身近なものになり、とうとう今年は電子カルテに移行するも

のと期待していたのですが、残念ながらこちらも延期となってしまいました。ほっとする気持ちと残念な気持ちの両方ですが、出来るなら今年が良い進歩があればと期待します。皆さんにとって良い年でありますように。(産科婦人科 堀川道晴)

時事ニュース

News

- 10月11日(日)…ドクターヘリ就航式
- 11月2日(月)…広島大学により大学間相互チェック
- 11月9日(月)…群馬大学への訪問チェック
- 12月16日(水)～18日(金)…
日本医療機能評価機構による
病院機能評価受審